

ASEAN を見つめる～和で大で国際協力を～活動報告書

プロジェクトメンバー

久保明日香，観光学部

太田雅也，観光学部

池田京介，経済学部

高越咲希，観光学部

大塚嘉人，観光学部

樋口佳南，システム工学部

前綾香，経済学部

村田紋音，観光学部

納村悠希，観光学部

橘光咲，システム工学部

山崎大護，経済学部

井上珠子，観光学部

月森夏愛，経済学部

福地渉，経済学部

南ありさ，観光学部

鄭有芝，経済学部

指導教員

和歌山大学国際教育研究センター特任准教授 藤山一郎

目的と目標

私たち和歌山 ASEAN プロジェクト(通称:WAP)は 2012 年 2 月に和歌山大学国際センターが企画する一回生限定の「和歌山・タイ・フィールドプログラム」のもとタイに派遣され、異文化交流をはじめ様々な体験をすることができた。その時の経験や知識または感じたことなどを活かして、和歌山大学で国際協力に対する関心を高め、活動を盛んにすることを目的とする。また、「和歌山・タイ・フィールドプログラム」の報告会を設け、和歌山大学の広報活動に取り組む。



活動内容報告

<Talking Shower>

私達は和歌山大学における学生同士の交流が希薄化していることに問題意識を持った。SNS などの進展などによりネット上でのコミュニケーションは広がり続けるが、顔を合わせて直接自分の意見を述べる機会は少ないのではないか。さらに世界のグローバル化が進む今、自分の意見をアウトプットする能力と国際理解が重要となっている。現在の問題点とこれからの社会に求められるポイントを踏まえ、私達は **Talking Shower** というイベントを企画することにした。

Talking Shower とは毎回決められたテーマ（例：ASEAN における環境問題）に沿い、そのテーマの問題点の是非や原因など、また大学生だからこそできる解決方法などについて意見交換をするディスカッションイベントで、様々な問題に対する多様な考えを共有し知識を得て、学生の中に国際理解を深める。また、その結果を適宜発表することにより、本学全体の国際協力に対する関心を高める。タイで知識や体験をインプットした WAP のメンバーのみの参加ではなく学部を問わず国際協力に興味のある学生に参加してもらい、自分の意見や考えをアウトプットしてもらおうのが狙いだ。参加人数の多い場合はいくつかのグループに分け、最後に各グループの成果発表を行う。毎月一回を目安に開催している。

	日程	議題	参加人数
第一回	2012 年 07 月 12 日(木)	経済格差について	15 人
第二回	2012 年 09 月 21 日(金)	社会に対する大学生の役割	8 人
第三回	2012 年 11 月 08 日(木)	働くことについて	36 人
第四回	2013 年 01 月 24 日(木)	～だけで終わらないために	14 人

各議題にそれぞれ3つごとの、さらに細かい小題を用意し、それらの質問にそってディスカッションを進めていく。

第一回小題

- ・貧富の差の原因はなにか
- ・格差があってはいけないのか
また格差を減らす努力は必要か
- ・一定の生活水準を満たしている場合さらなる援助は必要か

第二回小題

- ・大学生としての意義
- ・4年間でなにをするか
(大学性のうちにしかできないこと
大学生にしかできないこと)
- ・WAPとしてできることしたいこと

第三回小題

- ・ 人生のなかで働くことはあどれくらいのウェイトを占めているか
- ・ 職場選びで何を重視するか
- ・ 子供ができたら仕事をやめるか
- ・ 海外で働くことについてどう考えるか

第四回小題

- ・ カンボジア小学校建設問題について
- ・ ~だけで終わらないためになにをすればよいか

毎週木曜日の5間終わりから毎夕集まり、Talking Showerの企画、実施後の反省、次に向けての課題克服などの会議を設けた。議題ごとにWAPメンバーの中で企画する人を変え、それぞれに特徴を持った進め方ができた。第一回、第四回では問題意識を高めるために、ディスカッションの前にプレゼンテーションを行ったり、第三回ではデートオクロックという時間を導入し、できるだけ多くの人と交流できるよう工夫した。また、多くの人に参加してもらえるよう、昼時間にシンボルゾーンでのビラ配りやSNSを通じた宣伝などにも力をいれた。第四回ではアンケートを実施し、今後に向けた取り組みに活用する。だが、参加目標人数30人に達したのは第三回だけなので、TalkingShowerの広報活動にさらに尽力し、継続して続けられるようにこれからも取り組んでいきたい。



<国際交流活動>

WAP メンバーも積極的に国際交流の機会を得ている。国際交流基金関西国際センターの研修員の方達と交流し、意見交換をしたのちに和歌山大学の案内をした。また、「和歌山・タイフィールドプログラム」で現地にて訪問したカセサート大学付属学校の生徒が来日した際には、和歌山大学を案内し、大阪城の観光のお手伝いや、クリエプロジェクト「ばあむ」と連携して和歌山が誇る世界遺産である高野山を一緒に訪れた。国際交流を深めることで、グローバル化する社会を肌で感じ取ることができ、自分自身の見解を広げることができた。さらに立命館大学インドネシア国際協力団体「CheRits」とお互いの活動内容について発表しあい、これからの進展を誓い交流を交わした。しかし、目標として掲げていた **Talking Shower** や自分たちでの学習を通して学んだことを発信していく和歌山大学の附属小学校での国際理解教育の授業を行うという企画を実施するにいたらせられなかったため、今後はこの取り組みもしっかり視野にいれて活動していくことが重要である。



<和歌山大学広報活動>

私達は「和歌山タイ・フィールドプログラム」で経験したことや学んだことについてさまざまな場面で成果報告会を開催した。大学側に向けてや企業に向けてなど、そこで和歌山大学がいかに国際理解のための活動に尽力しているかを述べ、和歌山大学の広報につなげた。最も大きなイベントだったのが、2013年02月02日(土)03日(日)に大阪国際交流センターで開催された「ワンワールドフェスティバル」への参加だった。「ワンワールドフェスティバル」とは、毎年大阪で開催される国際協力・交流のお祭りで、参加団体約150団体がそれぞれの活動や成果などをブースに分かれて発表しあい、ふれあいを通して地球規模の課題について理解を深め、新しい国際協力・交流のあり方を見つけるのが目的のイベントである。関西を中心に国際協力に携わっているNGOをはじめ、国際機関、政府機関、教育機関、企業など様々な機関が協力して開催されている。私達は和歌山大学という名を背負い、このイベントに参加して、タイで学んだことや現在大学で取り組んでいることなどを来場者に詳しく説明した。話を聞いてくださった方の中には、「これほど国際交流に支

援をだしてくれる大学は他にはない」「ぜひ娘を和歌山大学に行かせたい」「和歌山大学に興味を持った」と本大学に非常に興味を示してくれたので、広報活動に効果的だったといえる。また、私達寺院も様々な国際協力団体の取り組みや活動内容などを聞くことができ、組織のあり方や、国際理解の知識を深めることができた。



今後の課題・展開

和歌山大学における国際交流、国際理解の関心を高めることも目標に一年間クリエのもとで活動してきた。今年「和歌山。タイフィールドプログラム」に参加した第二期メンバーも、現地で学んだことを活かしWAPの仲間入りを果たして、ともに和歌山大学を代表して活動を広げていく。この一年一期生で進めてきたが、まだまだ進展の余地はあるので第二期メンバーと達成していきたい。また広報活動においては「ワンワールドフェスティバル」のようなイベントに参加して多くの人々に和歌山大学に対して関心を持ってもらいたい。